

人間にとっての幸せとはなんだろうか？

先日、私が司会を務めるテレビ神奈川の番組で、日本理化学工業会長の大山泰弘さんと対談させていただき、その答えの一つを覚えてもらったような気がする。

同社は、粉末が飛ばず、着衣や室内を汚さない「ダストレスチョーク」作りをしている。その取り組みはテレビや雑誌で紹介されはじめ、今やインターネットを通じ、世界でも有名になっている。

大山さんは「働くことによって人間は幸せになれる。人間の究極の幸せとは、人に愛されること、人に褒められること、人の役に立つこと、人に必要とされること。それは、働くことで得られる」とおっしゃった。

同社は社員の7割以上が知的障害者で、その半分が重度

働くことで得られる幸せ



の障害を抱えておられる。もともと障害者雇用に対する理念は持っていなかった大山さんだが、あるきっかけで2人の子的障害者を雇用したことから、夢中で働く彼らの姿やそれを支え助け合う周囲の愛情に衝撃を受けたという。そこから、ともに働く人たちが励まし、喜び合い、自立できる、という人間の根源的な幸せを実現する会社を作り上げられた。私は胸が熱くなった。

「会社とは、社員に働く幸せをもたらす場所」という言葉を聞いたとき、気づきがあった。逆に、私たちは、毎日

働く幸せを知らず知らずに見失いかけているのではないかと考えさせられたのだ。

最後、工場の敷地内に置かれているというブロンズ像「働く幸せの像」の話に驚いた。

実は、私にも恥ずかしながら、デビュー時にファンから寄贈された「椿姫」第3幕を歌う姿のブロンズ像が東京・溜池山王のアーケヒルズにあるが、作者が同じ松阪節三氏だったからだ。とても不思議なご縁を感じている。

(さとう・しのぶ＝声楽家)

＝毎月第3金曜日掲載

